

「公共建築の日」フェスティバル2016 in モエレ

- ◆開催日：平成28年10月15日（土）
- ◆開催場所：モエレ沼公園 ガラスのピラミッド
- ◆来場者数：890名

主催：「公共建築の日」及び「公共建築月間」北海道地方実行委員会、北海道開発局

後援：北海道、札幌市、江別市、石狩市、（国大）北海道大学、（一財）北海道開発協会、（一社）北海道建築士会、

（一社）北海道建築士事務所協会札幌支部、（公社）日本建築家協会北海道支部、（一社）札幌建設業協会、

（一社）北海道空調衛生工事業協会、（一社）北海道電業協会、（社）北海道技能士会、北海道建具工業協同組合連合会

平成15年度に11月11日を「公共建築の日」と定め、平成17年からモエレ沼公園で「公共建築の日フェスティバル」を開催し、今年で12回目を数えました。

例年同時期、同場所で開催していることもあり、おかげさまで知名度も上がり、毎年楽しみにして参加して下さる地域の方々もおり、秋の恒例イベントになりました。

このイベントは、親子で参加できる体験型のプログラムを主体に行っており、特にお子様にも建築（ものづくり）の楽しさを体験していただくものとなっています。各プログラムの内容と参加された皆様の様子を紹介いたします。



●ダンボールシティをつくろう！・まちなみづくり

メインとなるこのプログラムは、大きなダンボールを使って、親子で建物やまちなみを製作するものです。

16組の事前申込みとしていましたが、例年より早く定員に達する人気ぶりでした。

当日は、ダンボールシティ市長（北海道開発局営繕部営繕計画課長）からの開会宣言により製作をスタート。初めて参加される家族が多い中、事前にダンボール建築を設計してきた方もおり、比較的スムーズに製作を進めることができました。

完成後には、それぞれの家族が製作した建物との「記念写真」と「ダンボール建築家認定証」を組み合わせたフォトフレーム型認定証を市長から手渡し、最後に参加者全員で記念撮影を行い終了しました。



いろいろな形で、できあがっていきます。

また、まちなみづくりは、当日でも参加できるプログラムとしていましたが、天候に恵まれたおかげか、予想以上の参加者となり皆様にお楽しみいただいた一方で、一部資材が不足するという誤算もありました。



上：手渡されたダンボール建築家認定証



上：テレビ父さんと一緒に記念撮影



左：完成作品と一緒に撮影

●ものづくり体験

「建具細工」ブース（北海道建具工業協同組合連合会）では、例年人気の「イスづくり」の他に、ペン立てや組子細工などたくさんのメニューをお楽しみいただきました。

「木工細工」ブース（技能士会）では、「こども用テーブルづくり」を行いました。作り方を教わりながら工具を使って一生懸命作り、完成品を持ち帰る姿が誇らしげでした。

「ペットボトル水流実験」（北海道空調衛生工事業協会）、「ワイヤークラフト」「延長コードづくり」（北海道電業協会）等、主に建築資材を使用した体験型プログラムも好評で、定刻前に予定数量に達したブースが生じてしまいました。それぞれ、一生懸命もの作りに取り組んでいる子供たちの様子が印象的でした。



上段左から 建具細工（椅子づくり）、木工細工（子供用テーブルづくり）

ワイヤークラフト製作、延長コードづくり

下 段 水流実験

お子様一人のチカラで、時にはお父さんお母さんのチカラを借りながらがんばりました。

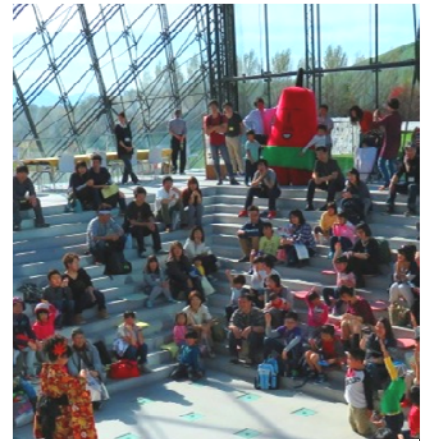
●ワークショップ

キリガミスト千陽さん（切り紙パフォーマー）による、切り紙の世界を披露していただきました。中には、公共建築を題材とした作品もあり、出来上がった作品は来場者へプレゼントされました。

パフォーマンスの途中でテレビ父さんが登場し、テレビ父さんを切り紙作品とするコラボレーションも行われました。

また、わくわく創造アトリエの指導で「積み木のまちづくり」を行いました。

今年は、プログラム回数を3回に増やし、みんなで力を合わせてつくる大型作品は、建築や街並みに近いテーマを選んで、それぞれ違うテーマに挑戦していただきました。



切り紙パフォーマンス
テレビ父さんを題材に作成中

積み木のまちづくり



大きなドーム



大きなマチ



大きなメイロ

おかげさまで今年のイベントも、親子で材料の感触・工作の音・水流の輝き・木の香りなどを感じながら、時には創造力をかき立てられている様子を見ることができ、関係者一同も笑顔でイベントを終了することができました。

皆様にお楽しみいただけるよう、来年も同時期に同様のイベント開催を予定しております。ご来場をスタッフ一同、心よりお待ちしております。